# 季節を詠む、時流を詠む 四季の歌

## 美野里短歌クラブ

石岡の今日は宵宮おはやしに祭り半纏つややかなりし　菱沼清子
孫のため豆入らずの栗ごはん娘は脇で苦笑いする　山口和代
草花の好きだった友思い出を沢山くれて永遠へ旅立つ　宇都宮和子
神仏に供えし御飯捨てがたく庭に散らせば雀飛び来る　碇谷きえ
朝顔の葉が喰われいて茎だけにそれでも花は咲き継いでおり　白根沢清香

## 小川短歌会

短歌会は少人数でも楽しいね月に一度の笑顔に会える　根本智恵子
天高し真澄の空を二すじの白線引きつつ飛機は飛び航く　石田はる江
疎開せし父の実家でもぎりにきザクロもらいて味をたしかむ　佐藤正
うなずきて少女聞きおり昔語りいろりに赤き手をかざしつつ　中根良子
握り癖のこる包丁亡き母のたましい今も薄刃のひかり　幡谷啓子

## 玉里短歌会

太鼓橋の朱よりも紅葉際やかに雪降る前の伊香保華やぐ　野口初江
百年を愛されて来し神宮の森の樹木が伐り倒されぬ　石橋吉生
二十歳過ぎに独り訪ねし天心館かの日抱きし夢思い出す　鶴町文男
草の中に花いじらしき紫のツリガネニンジン遠き鐘の音　高田久子
はるばると来ぬれば嬉し五浦の天心像は生きいるごとし　正木敦子

## みづうみ俳句会

極月や仏の夫に留守たのむ　榎本喜代子
廃校の校庭染る草もみじ　長島昭
白き息吐きて登校冬の朝　長島さか江
コーヒーにミルクたっぷり冬の朝　長島久美子
速足の精鋭駅へ冬の朝　長島美奈子

## みのり俳句会

爽やかに会へば相手も爽やかに　友水清
野路菊のかほり賑はふ一処　佐藤清子
忘れゐしこと思ひ出す日向ぼこ　島田草心
さからはず風に任せて秋桜　白根澤清香
いつの間に生かされていし米寿かな　立原千代

## 欅の会

クリスマス貧者一灯誰のもの　岡島進
大欅いま裸木となる途中　井坂あさ
球根植えるいろいろあったこの一年　村田妙子
ミルクティ妻へ勤労感謝の日　網代奈津江
戦なき空平らかに白水仙　木村小夜子

## くるみ俳句会

明日ありと余力あつめて日記買ふ　城垣内睦子
生活とは生き抜く事と去年今年　福島邦誉
霜月に生まれて傘寿迎へけり　堀内いづみ
一門と絆深むる納め区座　松崎淑子
老の身も忙しき日日や十二月　安彦昭子

## たまり俳句会

小春日や海は群青極まれり　大石康子
黄落にひそと埋もれて一里塚　小玉知子
老ゆる程古里忍ぶ年の暮　斉藤富子
里山に煙一筋冬支度　まめすけ
里帰り柚子湯にはしゃぐ孫達よ　鶴町文男

## 小美玉川柳会

「ありがたや」幸齢というお年玉　江戸忠男
花盛り紅やおしろい不要です　岡島進
冬桜可憐に咲いて春を待つ　石井昭夫
今の歯は母の養分贈り物　橋本昇丘
信仰心煽る巧みな寄付の額　小林岳悠